

HB通信

編集・発行 /
一般社団法人
ひょうご部落解放・人権研究所



〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-25 兵庫人権会館2階
TEL: 078-252-8280 FAX: 078-252-8281
e-mail: blrhgy@extra.ocn.ne.jp URL: <http://blrhgy.org/>



あけましておめでとうございます



昨年は、ひょうご部落解放・人権研究所の活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

「人権の世紀」と呼ばれる21世紀は、今、第二四半期という新たな段階を迎えました。私たちは、この新しい時代が真に人権が尊重される社会となるよう、不断の努力を重ねてまいらなければならないと決意を新たにしております。

さて、昨年の出来事のうち、年を越しながら考え続けてきた出来事があります。それは、ある法要の席で、ご住職が挨拶の中で言及された出来事です。ご住職は、ご自身の日常生活の中で何気なく発した排除につながる言葉が、ごく身近な人の心を深く傷つけてしまい、二か月経った今でもそれを引きずっている、という痛切な反省の思いを述べられました。

私はこのお話から、二つの大切かつ基本的な教えを受け止めました。一つは、話をする相手に対しては、よくよく相手の立場を考えて言葉を選ばなければならないということ。そしてもう一つは、常に自分自身の言動を振り返り、よりよい言動を模索し、より高みを目指していかなければならないということです。ご住職の生きる姿勢そのものが、私たちへの教えにつながっているのだと私なりに理解させていただきました。

これはまさに、相手の人権を尊重することに通ずることなのではないでしょうか。ご住職の悩みは、差別を受けた人の心の傷と、差別を与えてしまった人の心の膿を、見事に捉えた教訓の具現化に他なりません。私たちは、この教訓を深く心に刻み、人権意識を高めるための研究と学習、そして情報発信をさらに深めていく必要があります。

新年におきましても、皆様がより一層研究や学習に取り組みやすい環境整備と情報発信に、全

力を尽くしてまいります。引き続き、当研究所の活動へのご理解と、温かいご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

皆様のこの一年のご健勝とご多幸を祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。

2026年 元旦

ひょうご部落解放・人権研究所長
則定広人

今号のもくじ

- ▶1面…あけましておめでとうございます
- ▶2面…フィールドワーク〈現地研修〉のご案内
- ▶3面…本の紹介
『「あの戦争」は何だったのか』
- ▶4面…第4回人権セミナー
『「その“あたりまえ”は誰のもの?」
人権教育ひょうご春季学習会
事務局から plus

フィールドワーク〈現地研修〉のご案内

ひょうご部落解放・人権研究所ではご希望のテーマに添ったフィールドワークの企画、運営を行っています。お気軽にお問合せ下さい。

【コース紹介】

※コースは一例です。立寄りスポットは時間などによって変更します。

①湊川・番町地区コース（神戸市）

番町地区の成り立ち、湊川の付け替え工事が及ぼした地区への影響と被害、阪神・淡路大震災の被害と復興などについて学びます。

★立寄りスポット

湊川隧道、兵庫県立湊川高校、金楽寺、夜間丸山中学校西野分校跡など



②生田川・賀川記念館コース（神戸市）

神戸開港による外国人居留地の形成と屠場の関係、それに伴う新川部落の形成と水平社運動、賀川豊彦の活動などについて学びます。

★立寄りスポット

賀川記念館、賀川豊彦生誕 100 年記念碑、小野柄橋、えんぴつの家、専称寺など



③神戸華僑の歴史と孫文コース（神戸市）

中国情緒あふれる関帝廟などをまわりながら、神戸に多く住む華僑の歴史や神戸における孫文の足跡を学びます。

★立寄りスポット

中華同文学学校「孫文先生来訪之地」銘板、孫文「大アジア主義講演会の地」碑（兵庫県庁）、孫文記念館（移情閣）など



【料金】

基本料金 (10 人まで)	半日	終日	10 人を超える場合の 追加料金
神戸市内	35,000 円	40,000 円	1,500 円／人 例) 15 人の場合 7,500 円 (1,500 円× 5) を左記の基本料金に追加
神戸市外／兵庫県内	40,000 円	45,000 円	

※上記のほか、会場使用料や施設入館料、昼食代などは実費でご負担いただきます。

【お問合せ】 一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所

TEL : 078-252-8280 mail : blrhyg@extra.ocn.ne.jp



『「あの戦争」は何だったのか』

辻田真佐憲著、講談社現代新書、2025 年 7 月、1,050 円(税別)

今回紹介する辻田著の書名にある「あの戦争」とはどの戦争か。

ある人が近衛文麿（1891～1945）に尋ねた。「……についての古文書が近衛家に残っていませんか」「あの戦争で焼けました」「空襲で焼けたのですか」「いや違います、応仁の乱で」という（嘘っぽい）笑い話がある。

この笑話が面白いかどうかはさておき、お話として成り立つためには、「あの戦争」と言ったときに、大方の人が同じ戦争を思い浮かべなければならない。辻田著の「あの戦争」も笑話の「あの戦争」も、多くの日本人にとって、アジア・太平洋戦争のことであるのは自明だ。自明であるということは、辻田が指摘する通り、「あの戦争」が多くの日本人にとっていまだ「別格」であることを示している（270 頁）。

そして、「格別」であるにもかかわらず、「いかに描くべきかについて、いまだ社会的合意が成立して」（233 頁）いない。そういう現状にあって、辻田は本書で、「あの戦争を現代につながる大きな流れに接続し、「われわれの物語」として再び受け入れ、最終的に「あの戦争は何だったのか」という究極の問に答えるための試み」（9 頁）をしようとしている。辻田の構想する「われわれの物語」とは、「過ちを率直に認めながら、そこに潜んでいた“正しさの可能性”を掘り起こして現代につなげる、言い換えれば「小さく否定し、大きく肯定する」語り」（同）というものだ。

本書では、「われわれの物語」という言葉は「国民の物語」という意味で使われている。これについて、いろいろ思うところがある人もいるだろう。なぜ「国民」という枠組みで語るのか、辻田は「現在の国際秩序は国民国家を基本単位として成り立っているため、われわれはその枠組みを一種の幻想と理解しつつも引き受けるべきだろう。また、戦争が国民国家の行為とされる以上、その視点をまったく抜きに当時の歴史を語ることは現実的ではない」（9 頁）と考えている。私としても概ね同意する。少なくとも「あの戦争」について考えるとき、国民国家という枠組みは引き受けざるを得ないと思う。

また、「小さく否定し、大きく肯定する」という部分だけみると、戦争や戦中の悪行、判断ミス等を軽く扱う（過少評価する）と言っているようにも見えるが、そういうことではない。本書でも批判すべきことは批判的に取り上げられている。ここで言う「小さく」「大きく」は部分と全体のことだろう。ダメな部分は否定し、（この国の歩みの）全体は肯定する（否定しない）という意味と思われる。

本書で最も興味深いのは、第 4 章から第 5 章で、日米中と東南アジアの戦争博物館、歴史博物館、追悼施設を紹介しているところだ。「あの戦争」が各国でどう認識されているのか、統計や識者へのインタビューなどではなく、施設の展示の分析・比較から明らかにしている。辻田が本書で何度も強調する「歴史は客観的なものではなく、つねに現在からの解釈にほかならない」（5 頁）ということ（これは辻田が言い始めたのではなく、イギリスの歴史学者 E・H・カーなどにより以前より言われている）を、各国の展示が体现していることが分かる。

本書は、歴史の解釈を単純化、極端化することを避けるための試みの一つである。いろんなやり方、考え方があろうと思うが、「あの戦争」に向き合おうという人は一度読んでみてはいかがだろうか。（Ka）



〈第 4 回人権セミナー〉

「その“あたりまえ”は誰のもの？」

— 社会のあり方から考える差別と人権 —

講師：栗本敦子さん（Facilitator's LABO〈えふらぼ〉）

社会でおかれた立場や、生まれ育った環境による経験などによって、もの見え方、感じ方は違います。講演・ワークショップを通して、日常生活の中に潜む「あたりまえ」を問い直し、人権について学びを深め、一緒に考えていきます。

■日時：2026 年 2 月 14 日（土）13：30～15：30

■場所：兵庫県立のじぎく会館 101・102 号室

神戸市中央区山本通 4-22-15

■定員：60 人 ※オンライン配信はありません。

■参加資料代：①一般 1,000 円 ②学生・障害者・1,000 円

正会員・特別会員（クーポン利用の方）は無料です。

■申込方法：右の QR コードからお申し込みください。※2/12（木）締切

■お問合せ：ひょうご部落解放・人権研究所まで



これからの社会を
生きていくための人権
リテラシー
（栗本敦子・伏見裕
子 著 / 1,400 円 + 税
／北樹出版）



申込みはこちら↑

▶人権教育ひょうご 春季学習会のお知らせ

『共同親権制度のポイントと留意点』

■講師：曾我智史さん（弁護士・社会福祉士）

■日時：2026 年 2 月 15 日（日）14：00～17：00

■会場：ラッセホール（神戸市中央区中山手通 4-10-8）

■お問合せ：（一社）ひょうご部落解放・人権研究所 TEL：078-252-8280

『ひょうご人権総合講座』及び『人権教育実践講座』

→ 2026 年度も開催いたします！詳細が決まり次第、お知らせします。

事務局から plus

- 皆様は、今年 1 年の目標を決められましたか？私もいくつか考えました。すると、「～しない」というネガティブ目標ばかりとなりました。そこで、今年こそアクティブな生き方をしよう！これが目標になりました。（N）
- 今年は、どんな年になるのか。10 年ほど前なら予測もできたけれど、全く予測ができないこの頃です。ただ、一人ひとりが大切にされる社会に一步でも前に進めたい、そんな思いでいっぱいです。（Ho）
- 今号掲載の「本の紹介」を書きました。最近原稿

を書く機会が減って、どんどん書けなくなっていることを痛感しております。今回の原稿も不満足なまま掲載することになり、申し訳ないことです（ka）

- 今年の干支は丙午。「丙午の女は夫を食い殺す」という江戸時代に生まれた迷信のせいで、前回、高度経済成長只中の 60 年前、出生数が前年の 3/4 以下に。今年は影響なさそう…？まあ「削りしろ」もないですね（H）
- 4 月には長女ちゃんが小学生に★抱っこする時間も少なくなるのかなと思うと、かなりさみしいので引き続きベタベタしていこうと思います。26 年も健康一番で、家族時間を大切に過ごしたいです。（ひ）

